

くしゃみで失神（状況失神）

「いつ、どこかで、災難に合うか、誰にも分からない」には、頷く。が、「でも、事故は、くしゃみが原因かどうか？」と懷疑的なのは、ワッシーのへそ曲がりな悪友である。

3月1日に大阪で起きた交通事故の件だ。乗用車が暴走し、歩道にいた2人の女性が亡くなった。60歳手前からブリーキ痕がない。運転していた71歳の男性は、「事故前にくしゃみをして、意識が遠のいた」と話しているという。

悪友などは、頭の血管が切れるか？と奥さんが心配するようなくしゃみをする。が、ふらつきもしない。だから、くしゃみで失神するなんて、理解できない。だが、くしゃみだけではなく、せき込みや嘔下（飲み込み）、排尿や排便など、日常生活に行われる動作がきっかけで起きる失神は稀ではないのである。これらは「状況失神」といわれ、くしゃみで起きるのは「くしゃみ失神」とでも呼ぼうか。

咳やくしゃみをするとき、反射的に副交感神経系の迷走神経が活発になると、血管

が広がって心臓に戻る血液量が減る。心拍数も減る。脳へ運ばれる血液量が減る。限度を超えれば、ふらついたり失神したりするのだ。咳やくしゃみで、胸の内圧が高まるのも一因だ。静脈血が心臓に戻りにくくなることや、脳圧が上がることも関係する。が、つまりは、いきなり脳血流が減るから失神するのである。

失神は、いつでもどこでも、誰にでも起きる。ことに高齢者は、もともと、脳血流が低下している。心臓に血流を戻す筋肉の動きが落ちている。失神しやすくなっているのだ。が、予防する薬はない。だから、体調が悪くて、せき込んだりくしゃみをする時は、車の運転などしないほうがよい。というのに、悪友は、「俺なら大丈夫だ」と聞く耳を持たない。もう、好きにしろ。

（石黒修三＝いしほろクリニック・脳神経

外科医…3/18 北國新聞掲載）